

厚生労働省岐阜労働局  
恵那労働基準監督署 発表  
平成23年1月19日

署長 宇都宮良三  
監督課長 若田丈雄  
電話 0573-26-2175

# 「ゼロ災トライアル100」の実施結果

**208事業場がゼロ災を達成 目標達成率は82%**

恵那労働基準監督署（署長 宇都宮良三）は、恵那労働基準協会（会長 吉川光彦）と共催で、平成22年7月1日～10月8日までの100日間「ゼロ災トライアル100」を実施しましたが、その結果は下記のとおりです。

なお、この実施結果の詳細は岐阜労働局のホームページにも掲載します。

## 記

### 1. 「ゼロ災トライアル100」について

7月1日から10月8日までの100日間労働災害ゼロを目指して実施した無災害運動（別添1参照）で、恵那労働基準監督署管内の255事業場（14,233人）が参加してトライアルし、そのうちの214事業場（84%）は事業場名を公開（岐阜労働局ホームページに掲載）しています。

本トライアルは岐阜県内で初めて実施されたもので、県内の労働基準監督署のうち恵那労働基準監督署管内だけで取り組んでいるものです。

### 2. ゼロ災目標の達成状況について

参加してトライアルを実施した事業場のうち、208事業場（82%）が100日間労働災害ゼロの目標を達成しました。業種別では建設業や運送業で達成率が高く、事業場規模別では小規模事業場ほど達成率が高くなりました。（別添2第1・2図参照）

また、目標達成事業場には恵那労働基準監督署から目標達成証が発行されました。

### 3. 期間中の休業4日以上の労働災害発生状況について

21年の同期間中に発生した休業4日以上の労働災害は41件でしたが、22年は40件発生で1件減少しました。トライアル参加事業場では21年の12件から22年は10件と2件（17%）の減少となりました。その結果、災害発生事業場に占めるトライアル参加事業場の割合は29%から25%に減少しました。（別添2第3・4図参照）

#### 4. トライアル参加の可否について

トライアルに参加して良かった事業場は216事業場で、85%の参加事業場がトライアルの参加と実施を評価しました。参加の可否がどちらとも言えなかった事業場は34事業場(13%)で、参加して良くなかったのは1事業場でした。業種別では建設業での評価が最も高く、事業場規模別では50人～99人規模が最も高い評価でした。(別添2第5・6図参照)

参加して良かった216事業場のうち209事業場(97%)が理由を記載していました。理由は、従業員の安全意識が高揚したなどの効果があったため154件の他、目標達成ができたためや活動が具体的にできたためなど様々な効果があったことが報告されました。参加の可否がどちらとも言えなかった事業場は、目標達成できなかったためというものが最も多い理由でした。(別添3参照)

#### 5. トライアル参加事業場の意見について

参加事業場に意見要望の記載を求めたところ、61%にあたる155事業場が意見を記載しました。来年のトライアルの継続実施を求める意見が最も多く77事業場であったほか、取組事例の紹介など情報提供を求める意見など様々なものがありました。(別添4参照)

#### 6. 今後の取組について

本年度の取組に効果が認められたことから、23年度も7月1日から10月8日までの100日間、第2回目の「ゼロ災トライアル100」を実施します。

岐阜労働局ホームページ

<http://www.gifu-roudoukyoku.go.jp/>

# 別添 1

## 「ゼロ災トライアル100」実施要綱

～リスク低減、ゼロ災へ～

恵那労働基準監督署

### 1 趣旨

死亡災害の撲滅と休業災害の大幅な減少を図るには、各事業場がトップの決意のもと明確な目標を明示し、全員参加による自主的な安全衛生活動を積極的に展開して、災害につながる危険性を減らすことが必要である。

そのため、「ゼロ災トライアル100」～リスク低減、ゼロ災へ～と称する100日間無災害運動を提唱する。

これは、ゼロ災の分かりやすい明確な期間目標を定め、目標への挑戦を内外に宣言することにより、事業場トップの姿勢が表明され、労働者の不安全行動防止への意識付け、安全衛生担当者や安全衛生委員会の活動支援と活性化などが期待される。

目標に挑戦する各事業場が自主的労働災害防止活動を積極的に展開し、恵那労働基準監督署及び関係団体がこれを支援することにより、管内の死亡災害の撲滅と休業災害の大幅な減少を目指すものである。

### 2 実施期間

平成22年7月1日～10月8日(100日間)

### 3 実施者

恵那労働基準監督署の管内に所在する事業場(建設業の場合は店社単位、工事現場単位のいずれも可)で、趣旨に賛同し本無災害運動に参加する事業場(建設工事現場については、工期が平成22年7月1日から10月8日の全期間を工期内とする現場に限る。)

### 4 目標

トライアル参加事業場は、実施期間中のゼロ災害達成を目標とする。

### 5 実施要領

- (1) トライアル参加事業場は、6月11日(金)までに恵那労働基準協会を経由する等により恵那労働基準監督署あてに「参加申込書」により、ファックス又は郵送で申し込む。
- (2) 参加事業場には、6月30日までに「参加証」「実施要綱」「重点実施事項」「実施結果報告書」を配布する。
- (3) 参加事業場を対象に、6月30日午後、シアター恵那において「ゼロ災トライアル100推進大会」を開催する。

- ( 4 ) ゼロ災カウントの開始は7月1日(全国安全週間初日)とする。
- ( 5 ) ゼロ災の定義は、事業場内の労働者(出向、派遣及び構内下請の労働者を含む)について、1日以上(時間単位の部分休業を含む)災害(通勤災害は除く)が発生していない状態(不休災害は可)とする。  
なお、建設店社の場合は、当該期間中の全ての現場の関係請負人の労働者も含めるものとし、建設工事現場の場合は、当該現場の関係請負人の労働者も含めるものとする。
- ( 6 ) 参加事業場は、「ゼロ災トライアル100重点実施事項」を参考に、実施期間中それぞれ工夫をして効果的な労働災害防止活動を行う。
- ( 7 ) 参加事業場は、10月22日(金)までに「実施結果報告書」を恵那労働基準監督署あてにファックス又は郵送で提出する。
- ( 8 ) 目標を達成した事業場には、「目標達成証」を送付する。
- ( 9 ) 参加事業場は、労働災害が発生した場合は的確に把握処理するものとし、労災かくしが発生しないよう留意するものとする。

## 6 恵那労働基準監督署及び関係団体の役割

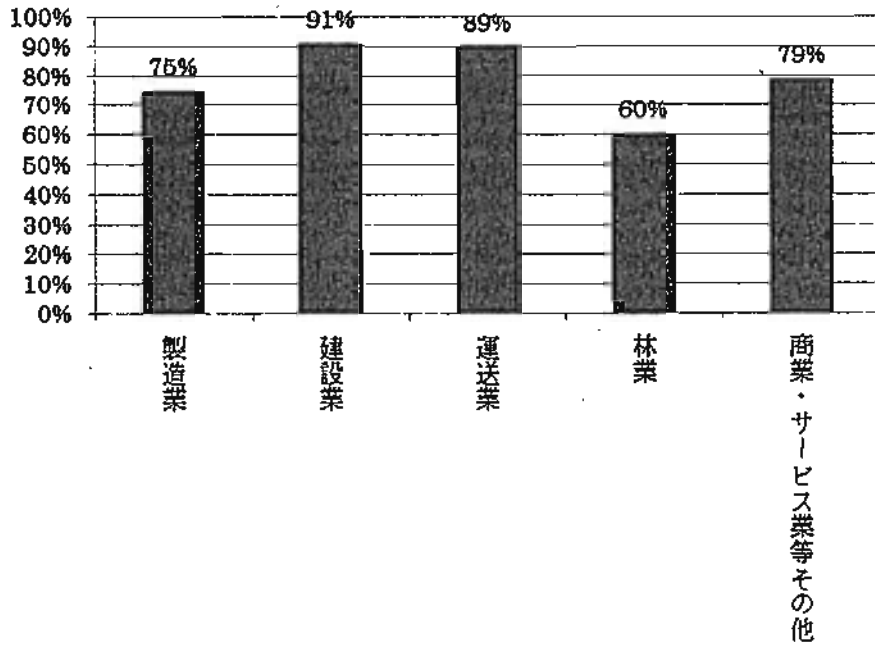
当署は、本トライアルの主唱者として、周知説明、参加募集、参加受付、参加証の発行、報告の受理、達成証の発行、結果の分析とりまとめ及び公表等の各事務手続きを行う。

恵那労働基準協会等の関係団体は、周知、参加募集、参加受付及び推進大会の開催に協力し、会員に参加勧奨を行う他、参加事業場の目標達成の支援及び本運動の機運の醸成を行う。

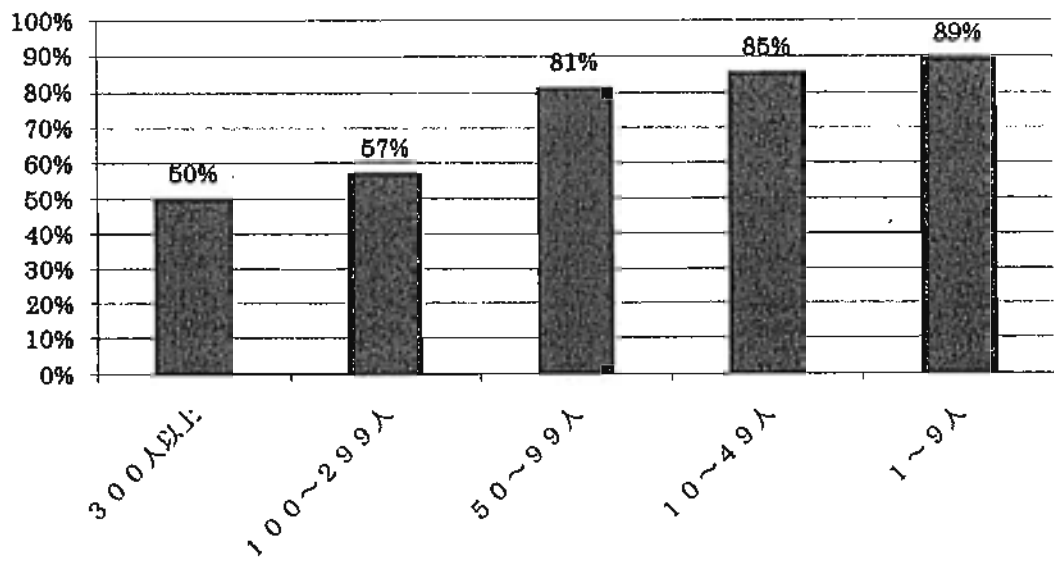
## 7 周知広報及び情報の公開等

- ( 1 ) 本トライアルの周知及び参加事業場の募集(申込書の配布)は、恵那労働基準協会、恵那労働基準協会恵中支部の会報紙に掲載依頼を行うほか、岐阜労働局ホームページ内の恵那労働基準監督署のページに掲示し、恵那労働基準協会各支部の主事会議、総会及びゼロ災トライアル100推進大会等各種会議で説明することとする。
- ( 2 ) 取組内容・結果について同ホームページに掲示するとともに、中日・岐阜新聞社に掲載依頼を行うこととする。
- ( 3 ) 本トライアルの参加事業場については、事業場名・業種・所在市町名を同ホームページで公開(公開を希望しない事業場を除く)する。
- ( 4 ) 管内の災害事例等について、6月から10月まで同ホームページに掲載し、参加事業場に利用可能な情報を公開する。

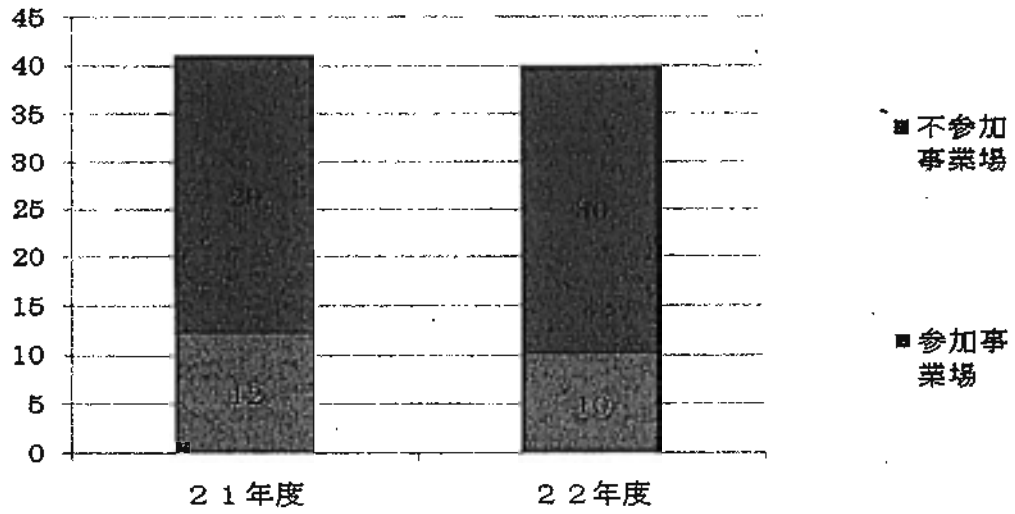
第1図 業種別目標達成事業場率



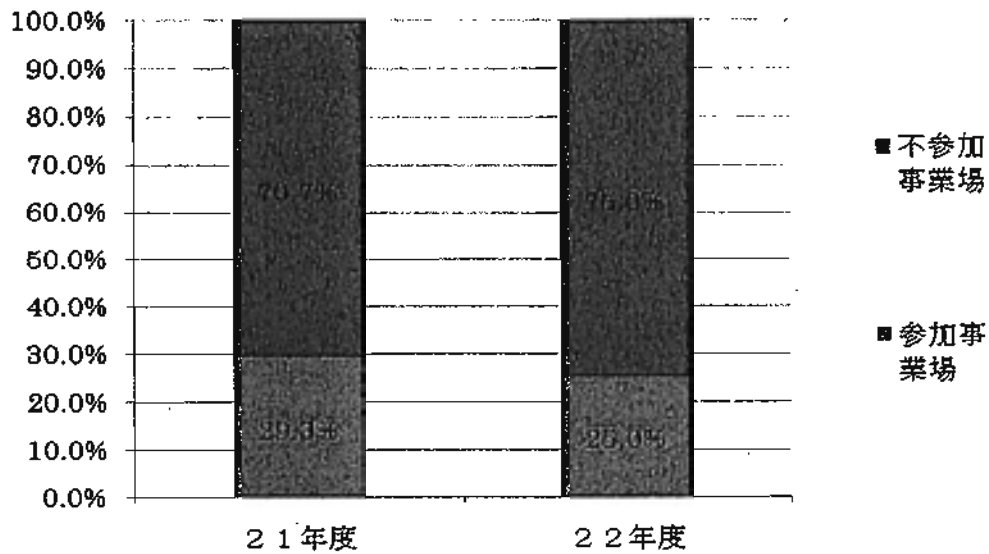
第2図 事業場規模別目標達成事業場率



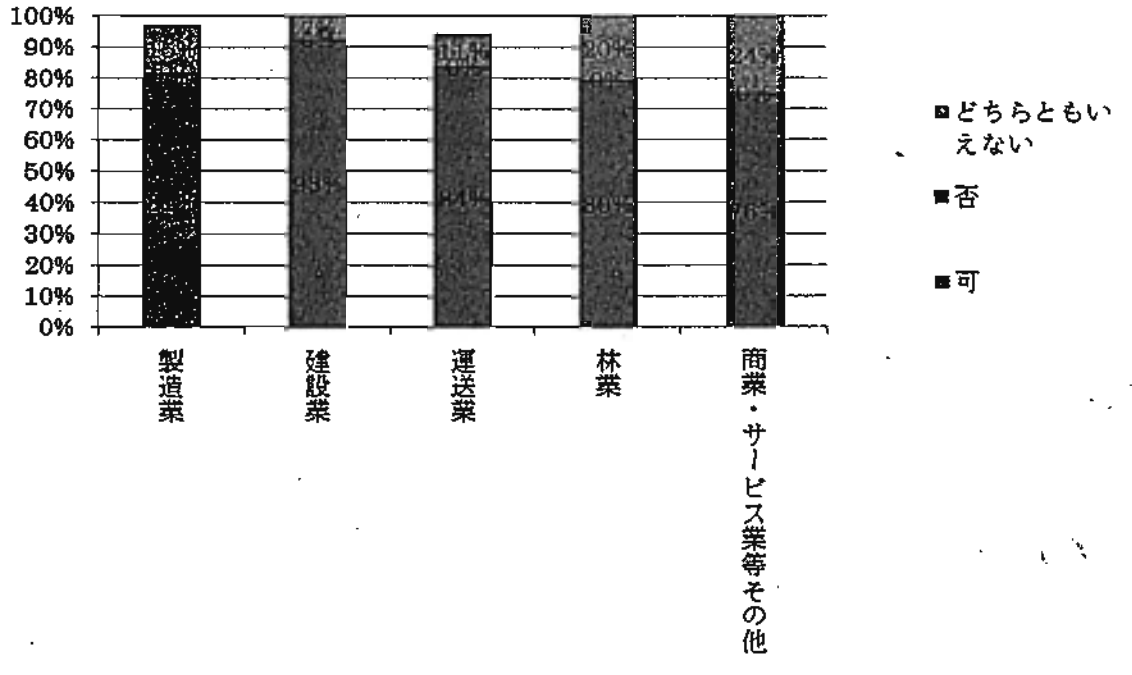
第3図 トライアル参加・不参加事業場別の労働災害件数



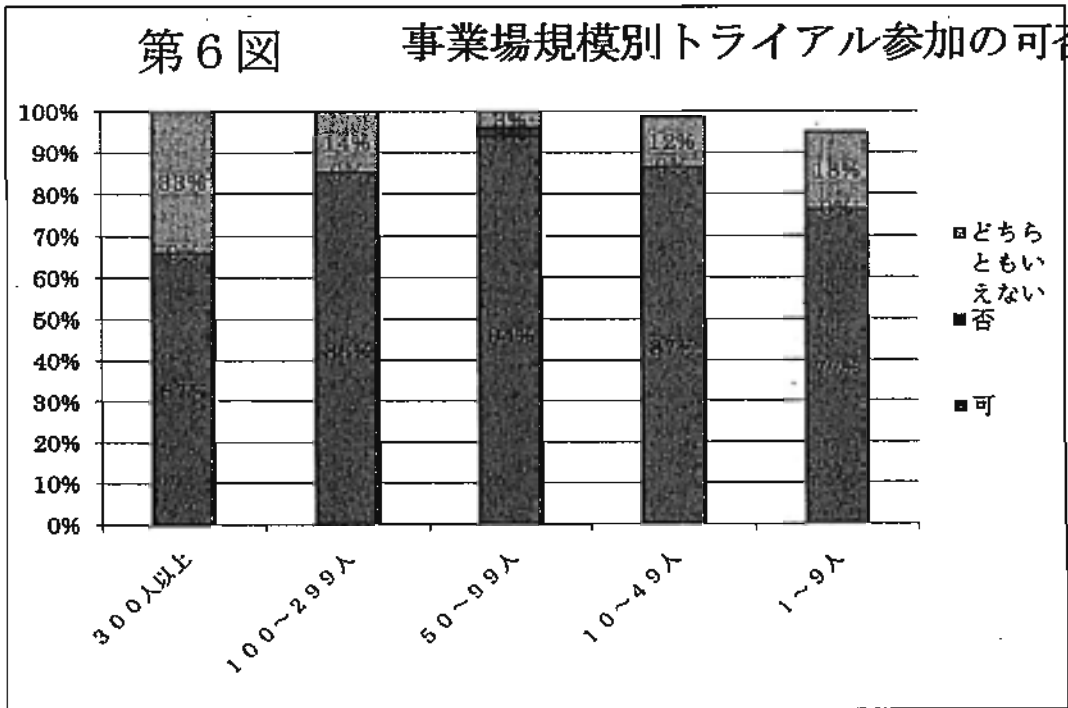
第4図 トライアル参加・不参加事業場別の労働災害発生率



第5図 業種別トライアル参加の可否割合



第6図 事業場規模別トライアル参加の可否割合



## 別添 3

### トライアル参加の可否の理由

(1) トライアル参加の可否の理由は、参加 255 事業場のうち 236 事業場(93%)から何らかの回答を得た。

- ・参加して良かった事業場 216 件のうち回答のあったのは 209 件(97%)
- ・どちらとも言えない事業場 34 件のうち回答のあったのは 26 件(76%)
- ・参加して良くなかった事業場 1 件からも回答があった。

(2) 参加して良かった理由で最も多かったのは、

安全意識の周知、確認、浸透、共有、改善、改革、継続、向上、高揚、積極化、引き締め等従業員の安全意識に何らかの効果が認められたためが 154 件。

そのうち、

- (ア) 特別な名称を用い、100日間という期間を定め、具体的数値目標を掲げたことで取組にメリハリが出て大きく盛り上がったため等、名称、期間、目標等を評価したのが 30 件
- (イ) 一部でなく全従業員の意識に効果があったためとするものが 21 件
- (ウ) 会社一体で目標の達成に立ち向かい、全員で何とかしようという意識が感じられ気持ちが一つになったため等、前向きで積極的な意識の共有をあげたものが 9 件
- (エ) 対外的なトライアル宣言で従業員の意識付けができ、モチベーションが上がったため等が 2 件
- (オ) 自社の意思で参加したので一層気持ちが引き締まり、会社の安全作業に真摯に取り組む姿勢を表明できたため等が 2 件
- (カ) 特に職制が参加意識を強く持ったためが 1 件
- (キ) 何らかのきっかけがないと行動が甘くなるためが 1 件
- (ク) 安全管理への関心が強まったためが 1 件
- (ケ) 不安全行動防止の意識付けが進んだためが 1 件
- (コ) 参加で何か違う気持ちになったためが 1 件
- (サ) 無災害日数が増すにつれて従業員の気持ちが高揚する感じがあったためが 1 件等となっている。

その他の理由は、

取組を通じて結果として目標が達成できたためが 26 件。

そのうち、

偶然ではなく、自分たちの行動で成し遂げたことに意義があったためが 1 件、残り何日と目標が持てたためが 1 件等となっている。

重点実施事項を基に活動が具体的に、自主的に、自然にできたため等が 7 件、全体を見て改善点がよく分かった、安全要領書の点検ができた、安全点検やパトロールの実施で危険箇所の把握ができ、安全設備の見直しにつながる改善ができたため等点検や改善に効果を認めたものが 10 件、ゼロ災運動が身近で具



体的になった、安全点検の参考となり具体的に明示できた、着眼点活動が明確になり参考となったものが5件等、重点実施事項により活動の具体化又は改善の効果を認めたものが22件

全従業員の意識の向上等のみでなく、全従業員が意見を出し合い知恵を絞って改善し、全員参加で取組を行うことができたため等、全員の行動を評価したものが11件

事業場名を公開したことで、管内全体でそろって共通意識や情報共有して多くの参加で取り組めた、他社との連帯感が生まれた、又は他社には負けないとの競争意識が生まれたため等、公開による地域全体での取組を評価したものが10件

リスクアセスメントの実施、開始するきっかけとなった、意識の向上、考える事ができた、KYと合体した活動表の取組で具体的にできるようになった、危険度を知ることで緊張感が増した等、リスクアセスメントに関する評価が10件

4S(5S)の大切さが理解でき実施できた、工場内がきれいになり安全効率が向上した、従業員が整理整頓を積極的に行うようになり仕事が雑にならなくなり作業の安全と効率がアップした等、4S(5S)に関する評価が8件

熱中症の設備的人的対策、塩飴の配布等が以前よりも積極的に実施できるようになった等、熱中症対策の評価に関するものが6件

KYの確実な実施、ヒヤリハットの意見の回収と対策の実施でヒヤリハットが減少したため等が5件

監督署主催の今までにない新たな取組であり、緊張感があったため等が5件  
災害がゼロになっただけでなく、配送ミスもゼロ、荷物の破損事故が減少した、朝のミーティングに遅刻する者が無くなった、より多くの意見がでるようになった、作業効率がアップしたため等、業務に効果を認めたものが5件

ほかに、指差呼称ができるようになった、事故が起きていなくても安全を強く訴えられた、活動を再認識する契機となった、無災害継続の大切さと意義の必要性を再認識できた、作業靴の変更ができた、責任者を決めて管理する契機となった、事故防止の声かけができた、過去の災害を振り返り再認識できた、安全活動の大切さが確認できた、トライアルに取り組むことが無災害につながる要因であることを学べた、日常の災害防止の徹底ができた、新しいKYの項目が見つかった、会議の回数を増やし徹底できた、パトロール様式・リスクアセスメント様式の見直しができ導入・活用しやすくなった等々、様々な評価理由が認められた。

(3)参加の可否がどちらとも言えなかった理由は、

安全教育、リスクアセスメント等の実施に取り組んだけれども、又は周知徹底が不十分で、従業員の意識付けができなかった等により、結果的に目標達成ができなかったためが7件

特別な実施事項もなく日常行っていることで変化が無い、又は日常活動で終わってしまい特別な活動ができなかったため等が6件

業種柄又は危険な作業箇所が少ない等インパクトが薄く、従来より高い関心を示せなかったため等が3件

ほかに、引き継ぎが十分でなく理解が不足していた、途中から忘れていた、従業員への意識付けができなかった、目に見える結果を得ることができなかった、日にちの経過とともに意識の低下が見られた、年間とおして実施していくことで期間を設けることが良いかどうか分からない等の理由が認められた。

- (4) 参加して良くなかった事業場の理由は、通常業務で時間が取れず、リスクアセスメント、安全パトロール等が行えず、達成に至らなかったため。

## 別添 4

### 意見要望

何らかの意見要望を記載した事業場は155事業場(61%)であり、主なものは次のとおり。

- (1) 来年も継続してこのような取組を実施して欲しいというものが77件
- (2) 他社の取組計画や事例が知りたい等の情報提供を求めるものが10件、  
そのうち、改善事例を各参加事業場から1件以上提出してもらい、安全事例として紹介してはどうかというものが1件、ヒヤリハットや災害統計があれば参考になるというものが1件、TBMの導入例・ヒヤリハット事例・ポカミスによる災害事例等を要望するというものが1件、10名以下の小規模事業所の事例を知りたいというものが1件
- (3) ゼロ災の目標が明確で100日間という達成しやすい期間が良かったとするものが8件
- (4) 自社にはまだ未実施の重点実施事項がある、具体的取組を示せるとさらに良くなる、たばこの害について周知し、禁煙活動の参考となるようにして欲しい、重点実施事項を取組やすいように工夫した様式があったほうが良い、今までやっていなかった事項についての取組ができるようになり大いに成果があった、もう少し分かりやすい内容であることと詳しい説明をして欲しい等、実施事項に関するものが6件
- (5) 年末・年度末など重大事故の発生率の高い期間で実施する、または前期・後期と年2回実施する等実施時期に関するものが5件、  
そのうち、管理者に説明するため推進大会と実施期間の間を3～5日程度空けて欲しいというものが1件
- (6) これを機会に自社で100日・200日・500日・1000日・3000日等とさらに取り組んでいくというものが4件、
- (7) 参加企業が集まる機会を作って欲しい、リスクアセスメントの評価方法の勉強会を実施して欲しい、100日間の途中で何か行事が有っても良い、軽い熱中症等など業務上外の判断に迷う例題を取り上げて欲しい等行事及び内容に関するものが4件
- (8) カウントダウン表を作成して欲しい、掲示物及び個人に持たせるものが欲しい、社内に掲示する標語が沢山あれば作って欲しい等作成の要望に関するものが4件
- (9) 表彰や掲示を考える、賞罰をはっきりさせて欲しい等というものが3件
- (10) 運送業・サービス業に関する対策項目がもっと欲しい、又は業種別にポイントを絞った活動内容を掲示して欲しい等業種に関するものが3件
- (11) 労働者も取り組むことの意義は大きい、安全対策を取っている理由を意識することでも意義がある、全員参加の意義を考える必要がある等意義に関するものが3件

- (12) マンネリ化防止のため安全活動を見直す良い機会になったというものが2件
- (13) 100日間の途中経過を教えて欲しいというものが2件
- (14) 外部からの指示指導を10分程度でもいいので実施して欲しい等、現場の監査指導を求めるものが2件
- (15) 現場からトライアルを実施できる環境作りがポイントというものが1件
- (16) 小規模事業所でも実施できるようになれば良いというものが1件
- (17) 恵那地域限定ではなく、広く愛知・岐阜・三重まで浸透すればよいというものが1件
- (18) 個々の事業所だけでなく、地区で総力を合わせることで意識が高まるというものが1件
- (19) 全員が災害防止の原点に振り返る良い機会となった。全員参加の委員会活動も活発になり大変良かったというものが1件
- (20) 中小企業でも安全に対する目標が社員全員にでき大変役立ったというものが1件
- (21) この活動の検証結果、今後の企業の自主的活動を促す考え方と具体的方針をフィードバックして欲しいというものが1件
- (22) トップや責任者に安全に対する緊張感が高まり良かったというものが1件
- (23) 監督署に災害についての講義を無料で実施して欲しい。有意義な検討集計ができるように難くなるのは困るが、実施結果報告書の様式を変更して欲しいというものが1件
- (24) わずかの気のゆるみで災害を発生させ、定期・不定期の安全教育の大切さを改めて認識したというものというものが1件
- (25) 何らかの実施目標のための各人の意識の認識が見られ大変良かったというものが1件
- (26) みんなの意識に緊張感が高まり良かったというものが1件
- (27) 100日経過後の気の緩みが危険というものが1件
- (28) 恵那管内限定の活動でより身近に感じることができ良かったというものが1件
- (29) 官民一体の取組が良かったというものが1件
- (30) ステッカーを貼っておくとふと気が引き締まったというものが1件
- (31) 全社員が無災害を意識し常に緊張感を持って取り組み、完全無災害を達成できたことは大変自信となったというものが1件
- (32) 来年は代表出席者を変更してさらに安全について取り組みたいというものが1件
- (33) 来年もトライアル前に各個人が準備に入り、尚一層のレベルアップを図りたいというものが1件等となっている。